

ワイヤーメッシュの補強と集中捕獲の検討

1 背景

- イノシシ対策で普及しているワイヤーメッシュ柵(以下WM柵)のみでは、**中型獣**のよじ登りなどによる侵入を防げない。果皮が薄い温州類、高単価が期待される中晩柑類の食害は生産者の収入減少、栽培意欲の低下につながることが懸念される。
- WM柵の複合化により被害の軽減を目指すとともに、防護柵の点検管理の省力化、捕獲対策について併せて検証を行った。



2 方 法

【実証圃場】早生温州、カラマンダリン、甘夏、計13a(太山寺地域)

- 目視や聞き取りでの被害の発生調査やセンサーマルによる観察を行い、効果を検証した。

《環境整備》外周の藪などを刈払い**緩衝帯**を作成 (7/26)

《守りの対策》既設のWM柵を**複合柵化**(9/18~)

メッシュガイシ(株)末松電子製作所

草管理での**除草剤(茎葉処理剤+土壤処理剤)**の活用

《攻めの対策》箱罠を複数台利用した**集中捕獲**を実施 (10/2~)



緩衝帯の整備

3 結 果

- 捕獲開始時点では、**早生温州の食害は見られなかった。**
- 捕獲実績: 10/9~11/5、ハクビシン、タヌキ、計6頭
11/5以降もセンサーマルで別個体を確認するも捕獲できず
- 1月末、**カラマンダリンの食害が発生**
センサーマルでハクビシンと同定し、侵入箇所を推測
侵入箇所(擁壁との隙間)の補強を行った

処理区	実施日	経過観測終了日	抑草期間
ザクサ液剤+シンバー	9/27	12/1*	約2ヶ月
刈払い(無処理区)	9/27	11/5	約1ヶ月

*気温の低下により、雑草の生育が止まり土壤処理剤の効果もなくなったと思われるため経過観測を中止



電気柵を延長して補強

4 考 察

- 藪などの刈払いによる緩衝帯の整備、メッシュガイシを活用した複合柵は、中型獣類の侵入防止に有効であった。
- 侵入防止策を講じた上で、複数の箱罠による集中捕獲は、中型獣類の被害軽減に有効であった。
(被害量: 対策前R5⇒4~5箱、対策後R6⇒半箱)
- 草管理での除草剤(茎葉処理剤・土壤処理剤)の利用は、緩衝帯や柵周辺の上層作業の省力化、電気柵の効果維持に有効であった。
- 定期的に草管理、侵入箇所の点検を行い、侵入が見られた場合は早急な補強が重要である。

※詳細は「動画で見る有害獣捕獲マニュアル」に掲載しています。

URL : <https://ehime-hunting.com/pages/?p=5703>

